

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を入居時や相談時に説明している。また日常的に、家族や職員が目にする事が出来るよう、玄関及び、ユニットに掲示している。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の目の届く所に理念を掲示し、全員が理解できるようユニット会議などで確認し、日々のケアに活かせるようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時や相談時に、理念に沿って、どのような取り組みをしているか、日々の生活を含め説明している。地域に向けた新聞も紹介している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や地域行事へ参加した時には、笑顔で挨拶をしたり、気軽に声を掛けていただけるような雰囲気づくりを心掛けている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭りや公民館での文化祭への参加を積極的に行っている。地域のゴミ拾いなどにも参加できるよう努力している。防火避難訓練の際、近隣の方に協力していただいている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で民生委員の方を通して、地域の方の健康管理や介護方法などで相談を受けることをお伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>外部の方の客観的な意見を含め、出された内容を検討、対応し、次の会議でその結果を報告している。また、会議録はユニット内にも掲示し、サービス向上に努めている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>地域ケア会議にも積極的に参加し、相談するなど、質の向上に努め、日常的に行き来している。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>研修に参加する機会を探し、積極的に参加している。必要時には研修内容などを活用できるよう、ユニット会議などで各職員の報告会の時間も作っている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待防止の研修に参加した職員から各職員へ伝え、理解に努め、それぞれが細心の注意を払っている。日々の変化を見過ごす事が無いよう、伝達や確認を行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>利用者や家族の質問や疑問にはひとつずつお答えし、十分理解し納得していただけるような説明に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>信頼関係を大切にして、言いやすい環境づくりに努めている。それに加え、利用者の日々の様子を見極め、変化を読み取れるよう努力している。ユニット会議で検討している。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>来訪時以外にも、二ヶ月一度、お便りを作成し、各個人の状況やホームでの出来事などを報告している。また、必要時には、電話連絡をしている。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。信頼関係を大切にして、言いやすい環境作りに努めている。意見等はユニット会議で報告し、運営に反映させている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>個別面談を行うなど信頼関係を築けるよう努め、言いやすい環境作りをしている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じて、管理者と連絡を密に取り合い柔軟に対応できるよう努めている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>必要時は話し合いなどの時間を十分に持ち、最小限にするよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	様々な研修や講演会に積極的に参加するようにしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	恵庭市グループホームネットワーク会に参加している。その場では意見交換を行うなどし、質の向上に取り組めるよう努めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	話しやすい雰囲気作りに努め、個別面談を行ったり、年に一度は親睦会を開いている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	自己啓発を促すための研修会の参加、会議などでは仕事に対する意識を高め合うよう努めている。また、管理者を通して職員の気持ちの把握に努めているが、不自信や意欲が損なわれないよう必要な説明や書面での対応にも努めている。勤務態度をもとに昇給や社員登用、資格を持つ職員には資格手当の支給など、意欲や向上心が持てる処遇にも努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	事前の見学も希望があれば複数回でも対応し、入居前に不安なことや困っていることを聞く機会を作り、それに対して、具体的なイメージが湧く様な説明に留意している。		
24 初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	入居前に施設関係者、ケアマネージャー、家族で話し合える時間を設け、不安や要望については理解しやすいような説明をするよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	十分な話し合いの時間を設け、見極めと理解に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の希望や状態に合わせ、必要なときは職員と一緒に過ごすなどして、少しずつ進め、変化等があれば家族に連絡や相談をして、本人が安心できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ることを尊重し、各職員が声を掛けながら、共に色々なことを行っている。また、穏やかに過ごせる時間を作るように心掛けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と同じ視線で考えられるような関係を持てるよう、留意している。家族来訪時には、近況を報告している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	何でも気軽に相談したり話し合えるような雰囲気作りに努め、本人、家族の状況を把握し、良い関係性が続くよう心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的なお便りや電話、面会時にも日々の様子を伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士楽しく生活出来るように見守り、時には職員が間に入って話をするなど、関わり合える環境作りに努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	全員ではないが、本人や家族の状況を考慮して連絡などを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人にとってのより良い暮らしとは何かを考えながらケアを行っている。利用者に向き合うよう努力している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式でのアンケートや本人、家族からも直接情報を得ており、職員全員が情報を共有するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活パターンの把握に努め、申し送りしている。本人の状況に変化があった場合は何が影響しているのか把握するため、センター方式のシートを活用し、総合的な把握が出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各職員が把握している細かな情報を、ユニット会議での個別カンファランスなどで話し合い、計画作成に当たっている。適宜、状態の把握を行い計画に反映するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	時々々の状況に合わせて、家族や介護支援専門員、各職員と話し合い、計画作成を行うようしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	カードックスに個別記録と計画を入れ、常に確認できるように工夫している。個別記録はケアの実践や介護計画の見直しの際に生かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望を聞く環境をつくり、可能な限り支援するよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて、民生委員、ボランティア、警察や消防などと、協力しながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な恵庭市包括ケア会議に出席し、研修や講演にも参加したり、日常的にも電話での情報交換を行うなど協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護師が、毎日の健康管理を行っている。24時間の連絡体制をとっており、緊急時の対応や受診の調整なども行っている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>精神科の協力病院があり、定期的、必要時の受診相談や治療に関する相談の支援をしている。</p>		
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護師を確保しており、日常の健康管理や医療に関する連携も支援している。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>病院関係者と常に連絡、連携に努めており、早期退院に向けての支援を行っている。医師からの状態説明やインフォームドコンセントがある場合は、看護師が家族とともに直接医師から話を聞いている。判断に困る時は本人、家族へ説明の追加や、本人、家族からの希望も伝えるなどの支援をしている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した時の指針を設け、入居時に説明している。必要時は家族とも話し合い、医師に状況を伝え、変化に対応できるような体制をとっている。</p>		
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者・利用者家族と「終末期の看取りに付いての確認書」「終末期の看取りに関する覚書」を交わし、状態の説明や事業所の「できること・できないこと」をお伝えしている。必要時は内容の再確認を行っている。かかりつけ医とは直接面談や「看取りケアマニュアル」に「医療行為の対応可能範疇」を記載し状態に応じて相談しながら支援している。医療行為に関しては、必要時訪問看護の支援もお願いしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えによる影響やダメージについては、職員全員が十分に理解しており、住み替えが必要な場合、必要な情報や話し合いのもとで実施している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	連絡ノートや口頭で互いの注意を呼びかけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	身振り、手振り、「はい」、「いいえ」での返答での意思表示など、本人の意思が反映しやすい方法を考慮して、支援をしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の意思を尊重し、希望に沿えるよう努めている。また、本人が希望を言いやすい雰囲気づくりに気を配っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	清潔な衣服、整髪などに心掛けている。訪問してくれる理・美容院を、家族と相談しながら利用している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	利用者に来れることは積極的にさせていただきよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>買い物や調理のときに利用者に声を掛けて、希望のものは購入するようにしている。口寂しいときなどは、チョコレートや棒付キャンディーなどの甘いものをすすめている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを掴み、トイレで排泄できるよう努めている。可能な限りおむつは外すようにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>日によって入浴の順番は大体決まっている。希望やある場合、タイミングが合えば入浴していただくこともある。</p>		<p>勤務体制により、入れる時間(午前)が決まっているため、希望時間に入れるような(夜間)体制も検討したい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>様々なケアや処置時は声掛けし希望や訴えなどには対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>昔の話を聞いたり、その人を知ろうと努力はしているが、現状はまだ不十分である。</p>		<p>生活歴をもっと詳しく知り、楽しみや習慣などを日々の生活に取り入れ関わりたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的にはホームでの管理だが、利用者によっては一部自己管理にて対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があれば散歩や買い物など、外出できるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの希望に沿ってはいないが機会をつくり支援している。(札幌見学・外食ツアーなど)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	基本的には電話は掛けたいときには掛けられるよう支援している。(家族の都合に合わせた対応や仲介する場合もある)		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時、家族とのコミュニケーションをとるように努めている。(挨拶、声掛け、お茶を出すなど)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「禁止の対象となる具体的な行為」は正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は建物の構造上、外部からの侵入防止のため24時間鍵を掛けている。居室やユニット入り口の施錠は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は目配りや見守り、声掛けでの対応、夜は巡回や見守りで配慮に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険度が高いもの以外は見守り強化で対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットが生じた場合は申し送りや回覧で全員に周知を図り、原因や対策を具体的に出し、事故につながらないよう取り組んでいる。又、安全対策委員があり、ヒヤリハットが二件出たら召集し、会議の中で該当利用者のみならず、利用者全員の状況把握の見直しと対策を講じ、事故防止に向けた対策に努めている。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	それぞれのマニュアルがある。急変が考えられる場合の個別の対応方法も記録しており、夜間にも看護師から連絡を入れ、状態に応じた対応方法を伝えている。又、応急手当などの研修にも参加している。		今後全員が応急手当の方法をしっかり理解し実践できるよう、訓練を行ったり、恵庭市グループホームネットワーク会での勉強会を行いたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に二回、自施設での火災訓練を行っており、地域、町内の人々へ参加、呼びかけを行っている。		地域の避難訓練への参加をして、避難場所や対応の仕方を学びたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や電話、定期のお便りなどで伝え、話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化、異変についての職員の気づき、報告、対応については、一本化されている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力薬局の薬剤師が来訪され、変更や注意が必要な点は伝えてくれる体制をとっている。また、薬専用の個人ファイルを作成し、職員全員が個々の薬の把握や服薬による変化などにも意識していけるよう努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給や乳製品を取り入れるなど、工夫している。又、食物繊維、根菜等も積極的に取り入れている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者に応じて、うがいや義歯の洗浄等、食後の口腔ケアを行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表でバランスを考えたメニューの検討を行っている。飲食、摂取量は個々の記録で把握できている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに沿った実施をしている。外部の方にも実施していただくために、掲示や声掛けなどの対策を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具などは消毒するなど衛生管理を行っている。定期的な冷蔵庫掃除、食材は日々の買い物で新鮮なものを購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関先はスロープになっている。ホーム前には花壇があり、季節の花や野菜が植えてある。適宜、玄関にも季節の花を植えている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	利用者の好むBGMを流したり、照明は時間帯などで調節している。壁には外出時の写真や利用者が作った飾りや作品を掲示している。また、室温調整もこまめに行っている。足音などにも配慮している。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共用空間にソファやテーブルを設置し、談話コーナーのような形をとっている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時に説明し、本人の使用していた楽器や食器、置時計、写真などを持参していただいている。希望があれば仏壇の持ち込みも可能にしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	室温調整や空調を使った換気を行っている。毎日最低1回は外気を取り入れている。排泄後の臭気が残っているときはすぐに外気を取り入れ、瞬時に換気できるように努めている。必要に応じて消臭剤も使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 今まで暮らしていた環境を大切に、生きがいを持ってその人らしい自由な生活を送れるように職員が利用者やそのご家族との関わりを大切に身体的処遇と心の安定に努めている。地域の方とのふれあいや交流を積極的に進めている。運営推進会議も軌道に乗り、地域の方からの意見を多く聞けるようになってきた。また、町内へ向けた「北くに新聞」の回覧は、「楽しみしている。頑張っているね」との声を頂いている。地域のボランティアさんも3名登録していただき、違った視点からの利用者様との交流を深めて頂いている。平均要介護度は徐々に重くなっているが、「自分では自分で、持っている力を最大限に引き出すケア」に取り組み、利用者様一人ひとりの力を見極める事ができるようになっている。開設以来3年半が過ぎ、利用者様の重度化が進み利用者家族の希望で具体的に「看取りケア」への取り組みを開始した。利用者様の最期まで「自分らしく充実した生命を全うしたい」という希望を叶えるため代表以下、施設看護師や介護福祉士が協力して職員へ対処方法や関わり方の伝達、主治医や訪問看護師との連携を行い初めての看取りに真摯に取り組んでいる。